

大阪大学大学院薬学研究科 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開

1. 研究課題名	統合失調症患者由来リンパ芽球より樹立する人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた病態解析・治療法探索
2. 研究責任者 (所属・職位・氏名)	大阪大学大学院薬学研究科・教授・橋本均
3. 倫理審査と承認日	【承認日】2025年5月7日 【審査】大阪大学大学院薬学研究科・薬学部臨床研究倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長の承認を得て実施する。
4. 研究実施期間	2025年5月7日～2029年3月31日
5. 共同研究機関および 各施設の研究責任者 (※多機関共同研究の場合記載)	東京農業大学生命科学部・教授・中澤敬信
6. 研究の目的・意義	統合失調症等の精神疾患患者から採取した血球系細胞を用いてiPS細胞を樹立し、分化して得られる神経系細胞等を用いて病態解析・治療法探索を行う。これにより、未だ不明な点が多く残されている精神疾患の発症機序の解明および新規治療薬の開発につながる知見を得る。 本研究により、生存する患者からは取得不可能であった神経細胞を用いた研究が可能になる。また、本研究の成果を基に、新規作用機序を有する治療薬の開発につながれば、多くの患者、患者家族の負担を軽減できる。
7. 対象となる試料・情報、その取得期間、利用方法	国立精神・神経医療研究センター倫理委員会にて承認されている「精神疾患データベースの構築・利活用により精神疾患の病態を解明しその障害を支援するための研究」で収集した（もしくは収集中）、文書により同意（結果の非開示の同意を含む）が得られた試料のうち42例を研究に用いる（統合失調症患者30名、健常者12名）。適切な手続き後に東京農業大学に試料・情報が提供される。その後、大阪大学大学院薬学研究科に提供される試料・仮名加工情報を利用する。
8. 利用または提供する試料・情報の項目	東京農業大学において樹立されたiPS細胞から分化誘導させて得た神経系の細胞およびその機能解析に必須となる仮名加工情報（整理番号、疾患名、細胞採取時の年齢、性別、脳画像データ、IQデータ）について利用する。
9. 研究対象者またはその代理人の求めにより、研究対象者が識別される資料・情報の利用または他の研究機関への提供を停止すること及びその方法	ご自身の試料・情報を研究に利用されたくない方は、連絡先までその旨お知らせいただければ、解析対象から削除いたします。
10. 研究資金・利益相反	公的資金（科研費等）を使用する。
11. お問い合わせ先	大阪大学大学院薬学研究科・准教授・永安一樹 nagayasu@phs.osaka-u.ac.jpまでご連絡ください。